



地球の引力に反発する物質が開発されてから5年が経過した。

その間に様々な応用の仕方が提案され、実行に移された。

その物質はまるで磁石のSとMのように、地球の引力に対して普通なら吸い寄せられるものが、逆に反発して地球から遠のこうとする。つまり空高く舞い上がるのだ。

この物質を何に應用できるか、という問題で提案されたものの代表は交通機関だ。引力に反発するこの物質をうまく應用できれば、飛行機やヘリコプターのようにエネルギーを使う必要がない。勝手に浮くものだから。研究者を始め、人々は大いに目を輝かせた。

しかしこの物質の反発力は引力の強さと同じくらい強いものであるため、放っておけば空から物質が落下するのとほぼ同じ速さで空の彼方へと消えてしまう。

よって、一定の高度を保ちながら移動する交通機関を開発するためには、この反発力を抑える仕組みを考案する必要があった。

しかし、その仕組みの考案こそが最も大きな問題点であり、課題でもあったのだ。

しばらく研究が重ねられたが、どんなに知恵を絞って世界中の科学者たちが試行錯誤しても一定のレベルのものしか出来なかった。

それでも、引力に反発するというそれまでの物理の常識を根底から覆すほどの発明を交通機関に生かさない手はない。

結果、“これからもっと良くしていく”という曖昧で漠然とした目標を掲げるという前提で、まだまだ未熟な状態で、引力の反発物質が交通機関に應用されることとなった。

空飛ぶ自動車、空飛ぶ列車、空飛ぶバス・・・・・・・・。

これらはかねてより多くのロマンチストたちが夢に描く未来図であった。

しかし、タイムマシンがいつまで経っても発明されないのと同じで、これまで空飛ぶ交通機関もなかなかその姿を見せない時代が長らく続いていた。

しかし。

やっと・・・・・・・・。

やっと！！！！

待ちに待ったこの時がやってきた。

未来図の象徴ともいえる空飛ぶ交通機関が数年間の開発期間を経て世の中に登場したのだ。

その第一号は“バス”だ。

そう、それまで夢の世界、漫画やアニメや映画の世界だった、“空飛ぶバス”。

だが・・・・・・・・。

なんともあべこべな悲しい現実ではあるが。

その空飛ぶバスは・・・・・・・・。

実に残念なバスだった・・・・・・・・。

技術者たちが多大な努力をした結果、“空飛ぶバス”はようやく日の目を見ることになった。

しかし、そのバスはファンタジーの世界のように優雅と空を飛ぶそのカッコいい姿とは少し・・・いや、むしろ大きく異なっていた。はっきり言って、残念な部分が多々残っているものであったのだ。

空飛ぶ交通機関がバスに限定されたのは、制作の“費用”の観点からだ。

例えば電車を宙に浮かせるとなると、その費用はまさに莫大。

さらに車に空を飛ばせるのは、大量生産が難しいという観点から先送り。

さらに飛行機など元々空を飛ぶ交通機関への応用も、その飛行能力の問題や費用的な観点から見送られた。

よって、“バス”がまだ最も応用に向いているという結論になったのだ。

しかしまだまだその構造のメカニズムが未熟と言うこともあって、一台の空飛ぶバスを制作するのになんと小さな飛行機一台分くらいの費用がかかる。

よって、一般化するのではまだまだ先のこととされた。

ひとまず運営が提案されたのは、全国を長距離移動する高速バスだ。しかし全国を駆け回る高速バスは、そのバスの“残念な点”によって廃案とされた。

そして街中の狭い区画を走る、市営バスに限定して運行が開始されることとなった。

そろそろここで、その空飛ぶバスの残念さを紹介しておこう。

その空飛ぶバスは、どう頑張っても地上わずか10m前後の高さしか浮かないという悲しい限界があったのだ。

先述したように放っておけば、引力に反発する物質は宇宙の彼方まであつという間に飛んでいき、宇宙の藻屑と化す。

そこで、その反発を抑えて一定の高さまでにとどめておくシステムを様々な方角、観点から必死で研究されたのだが、結果、科学者たちも難しすぎて根を上げてしまったのだ。

本当は飛行機のように上空1万メートル近辺を飛び回ればベストだった。

【体験版はここまでです。続きは商品をご購入ください】